

(別紙1-1)

令和元年8月20日

二本松市議会議長 様

会派名 本多俊昭

代表者名 本多俊昭



視察研修報告書

当会派において、下記により視察研修に参加しましたので報告いたします。

記

1 期間 令和元年7月3日(水)～7月5日(金)

2 参加者 ① 本多俊昭

3 視察地及び視察内容

別紙のとおり



(別紙1-2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 本多俊昭
氏 名 本多俊昭

- ◎ 月 日 令和元年 7月3日(水)～5日(金)
- ◎ 場 所 公益財団法人全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所
- ◎ 内 容 1、2019年度 市町村議会議員研修「3日間コース」
「社会保障・社会福祉」
- (1)2025年問題と社会保障政策(講義・演習)
「駒沢大学法学部 原田哲一郎教授
 - (2)介護保険と地域包括ケアシステム(講義・質疑・意見交換)
「淑徳大学コミュニティ政策学部長 鏡 論教授
 - (3)地域医療の現状と課題(講義)
「九州大学 尾形裕也名誉教授」
 - (4)認知症の基礎知識と社会参加による進行予防の可能性
「医療法人藤本クリニック 理事長 藤本直規様」
 - (5)街全体で人々を看まちづくり(講義・質疑・意見交換)
「京都大学経営管理大学院 岩尾聡士 特命教授」

◎ 視察・研修の感想

第一講義 「2025年問題と社会保障政策」では、駒沢大学の原田哲一郎氏が講義されました。講義については、人口のボリュームゾーンである団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり多くが給付を受ける側になるため、まず、懸念されるのは医療の問題。身体機能の衰えに伴い、高齢者は医療や介護サービスに頼るようになり、公的医療保険や介護保険の量も増える。こうした流れを受けて、社会保障全体の費用が膨らむ見通しだ。2025年の年金や子育て向けの支出も含めた社会保障費全体が149兆円になると推計されている。今後、生産年齢人口の急減という新たな局面を迎える我が国、経済社会の活力の維持向上のためには、高齢者の方々の就労・社会参加の基盤となる健康寿命の延伸等が重要な政策課題になるとのこと。

第二講義 「介護保険と地域包括ケアシステム」では、淑徳大学の鏡 論氏が講義されました。2025年には、65歳以上の高齢者は3,677万人となり、総人口の30%を占め、4人に1人は75歳以上の後期高齢者になる。2000年から介護保険制度が始まり、昔のように家族だけでの介護の負担がかかることがなくなった。しかし、高齢化とともに少子化が進み、税収が減少して社会保障費が予想以上の速さで増大し、そのため介護保険や医療保険などの公費だけで高齢社会を支えるのは無理が生じてきた。そこで国は、医療と介護を病院で行うものから、在宅で行うものへと切り替え、地域に関わる多くの人たちが相互につながることで安全と安心を確保していく地域包括ケアシステムの考え方を打ち出した。今後は、特に「互助」と「自助」の役割を一層高めようとする考えとのこと。

第三講義 「地域医療の現状と課題」では、九州大学の尾形裕也氏が講義をされました。我が国では世界一の長寿を享受する一方で、医療は大きな転換期を迎えており、地域の健康問題を解決し、国民が安心して医療を受けられる体制の確保が喫緊の課題となっているとのこと。医療提供体制の効率化や医師不足など、我が国の医療が抱える課題を解決していく中で、住民主体の医療を実現しつつ、医療費の伸びを抑制していくという難しいかじ取りが求められるとのこと。

第四講義 「認知症の基礎知識と社会参加による進行予防の可能性」では、藤本直規氏が講義されました。2025年には認知症患者の数が5人に1人の割合になると予想されている。近年、アルツハイマー型認知症だけでなく、前頭側頭型認知症やレビー小体型認知症の病態の解明が進み、診断技術や疾患別のケアの方法が明らかにされてきた。そこで、より軽度期診断されることが増えてきたため、認知症の診断にあたる専門医療機関は、介護保険サービスに繋がる前の支援の隙間にある人たちへ、社会心理学的ないし精神治療法的な支援を行う必要があるとのこと。

第五講義 「街全体で人々を看守るまちづくり」では、京都大学の岩尾聡士氏が講義されました。2025年までには病院も介護事業も大きく再編される。今後は、フランチャイズで成功している大手の会社と組んで病院を運営することで、お互いに相乗効果を生むことができる。そのためには現場とバックオフィスをすべて分ける必要がある。医療業界以外の手先の会社と組んで経営することにより、保険外収入を得ることができるので医療業界以外に任せた方が良くとのこと。医療・看護・介護が必要な高齢者をケアする専門的技術を持ったスタッフのいる施設を核に、医療機関、介護事業所をシームレスにつなぎ、質の高い医療を効率的に提供する仕組み。IWA Oモデルを提唱されているとのこと。

◎ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を掲載する。

今回の研修では、社会保障・社会福祉という大きな項目での講義を受講して参りました。高齢化とともに少子化が進み、税収が減少して社会保障費が増える。そのため公的医療保険や介護保険などの公費だけで高齢社会を支えるには無理が生じてきたため、国は、医療と介護を病院で行うものから在宅で行う包括ケアシステムへと切り替えた。医療が大きな転換期を迎える中、今後は、地域の健康問題を解決し、住民が安心して医療が受けられる体制の確保、また、住民主体の医療を実現しつつ、医療費の伸びを抑制していくことが求められる。医療機関、介護事業所をシームレスにつなぎ、質の高い医療を効率的に提供できる I W A O モデルの様な核になる施設が必要である。

2019年度 市町村議会議員研修[3日間コース] 社会保障・社会福祉

(敬称略)

月日	曜日	1時限 (9:25-10:35)	2時限 (10:50-12:00)	3時限 (13:00-14:10)	4時限 (14:25-15:35)	5時限 (15:50-17:00)	課外 (17:00-)	
7/3	水		11:00-12:00 受付 11:30- 昼食 12:30- 開講・ 開講オリエンテーション 入寮オリエンテーション	【講義】 2025年問題と社会保障政策 駒澤大学法学部教授 原田啓一郎		【演習】 意見交換	17:30- 交流会	
7/4	木	【講義】 介護保険と地域包括ケアシステム (質疑・意見交換30分程度含む) 淑徳大学 コミュニティ政策学部長・教授 鏡 諭		【講義】 13:00-15:00 地域医療の現状と課題 九州大学名誉教授 尾形裕也	【講義】 15:20-17:20 認知症の基礎知識と社会参加による 進行予防の可能性 医療法人 藤本クリニック 理事長 藤本直規			
7/5	金	【講義】 (質疑・意見交換30分程度含む) 街全体で人々を看守るまちづくり 京都大学経営管理大学院特命教授 岩尾聡士		12:00-12:15 閉講、事務連絡 ※「受講証明書」の再発行はできませんので紛失されないようご注意ください。				

◎日程は、都合により変更になる場合があります。

(令和元年5月31日現在)

研修担当：久保、樋爪